

かけ橋



令和8年1月30日
小平市立小平第八小学校
2月号

<https://www.kodaira.ed.jp/08kodaira>

豊かな創造性を！

校長 松本 雅史

もうすぐ立春、旧暦では年の初めです。二月は、「如月（きさらぎ）」ともいいますが、これは重ね着をする「衣更着（きさらぎ）」からきているとのこと。如月には、寒い冬から春に向かって万物が動き始める時期という意味があります。二月の別名については、「令月」「梅見月」「恵風」などがありますが、特に「令月」は、何をするにもいい月という意味があります。万葉集にある「時に、初春の令月にして、気淑（よ）く風和らぎ、…」など、現元号「令和」の語源にもなっています。厳しい寒さが続く中、あらゆるものが春に向かって確かな歩みを進める、そんな月といえるでしょう。

さて、いよいよ今月13,14日に2年に1度の展覧会が行われます。こどもたちの力作をどうぞ楽しみにしていただければと思います。

ところで、明治、大正期に日本で美術（図画）教育というと、教師が示した手本の模写が主流でした。それは、大人の用意した訓練プログラムで、「できない」を「できる」に徐々に高めていく指導です。その指導姿勢に一石を投じ、子どもの創造性を育む教育を提唱した一人に山本鼎という画家・版画家がいます。元々木版の彫り職人だった彼は、自分の感性を自由に表現したいと東京美術学校（現在の東京芸術大学美術学部の前身）に進学し、芸術家を志します。成績は首席を争うほどで、パリにも留学し、そこで島崎藤村と親交を結びます。そんな彼が、帰国途中に立ち寄ったモスクワで、こどもたちの生き生きとした絵に衝撃を受けます。

帰国後、彼は、図画教育にあって、絵画技術や方法が重要なのではなく、自分の目を見て、感じ取ったものを描くことが、こどもの発達にどれほど大切かを説き、その考えの下、大正8年に第1回児童自由画展覧会を開催します。この展覧会には、長野県内から児童自由画1万点が展示され、好評を博しました。そして、この図画教育への考え方は、自由画教育運動として全国に広がっていきます。鼎は、こどもに自由に絵を描かせる運動を進める中で、画材の研究にも取り組み、クレパスを考案したことでも知られています。そして、「自由画教育の要点」を中央公論に発表し、北原白秋らと日本自由教育協会を結成します。余談ですが、彼の妻は北原白秋の妹です。モスクワで、鼎はトルストイの家にも立ち寄っています。そこでも大きな刺激を受けています。「自由教育の要点」の中で、こう述べた個所があります。

「トルストイは、『児童について人の道を学べ、児童は未だけがされず、一彼れ等にとりては人々皆同じ』と云ったが、私は児童等の鮮やかな創造力に驚く者だ。日々社（東京日日新聞社）の展覧会の時に、石井鶴三君（彫刻家・版画家・吉川英治作「宮本武蔵」の挿絵画家）は感嘆してかう云った。『…子供はみんな天才なんだ』と」

こうした先人の言葉に接するたびに、私たち大人にこそ、こどもの創造性に感動できる豊かな感性が求められているのではないかと考えてなりません。来る展覧会では、そうしたこども一人一人の感性をじっくり味わっていただければと思います。どうぞ、お時間の許す限りゆっくりとご鑑賞ください。

2月の生活目標

「寒さに負けず、体を動かそう」

寒さが厳しくなり、つい背中を丸めて歩いてしまう季節になりました。しかし、こんなときこそ元気に体を動かすことが大切です。適度な運動は、体を芯から温め、免疫力を高める効果も期待できます。八小では、月に1回程度「運動遊び」の時間があります。的あてやシュートゲーム、長縄跳びや20m走など、自分で選んで遊びます。休み時間も合わせて、友達と体を使って遊ぶ楽しさをたくさん味わい、自分から運動しようとする気持ちが育つと嬉しいです。寒さに負けない、健康な体づくりを行っていきましょう。

生活指導主任